

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103482
法人名	特定非営利活動法人 介護企画あき
事業所名	グループホームあき
所在地	松山市富久町143-2
自己評価作成日	平成21年9月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

以前ある利用者の家族様に「グループホームあきが私の第2の実家だね」と言っていただきました。
 こんなに嬉しいことはなく、日々の活動が報われた瞬間でありました。
 これからも日々、利用者様そして家族様の支えになるよう活動させていただきたいと思ます。
 また、終末期におけるターミナルケアにも取り組みたいと思ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

近所の公園に散歩に行き、地域の方と挨拶を交わすことも多い。今年は地区の敬老会に招待していただき、14名の利用者が参加され、涙を流して喜ばれた。今年の秋祭りには、おみこしを入れられたり、ちょうちん行列にも回ってもらえるようお願いされており、樽酒やお菓子を準備して、利用者、職員でハッピーを着ることを楽しみにされていた。
 管理者は、職員全員とメールでもコミュニケーションに努め、相談やケアの技術、メンタル面等のフォローをされている。
 介護度重度の利用者にも入浴してもらえよう、移動式の浴槽を準備し、入浴支援されている。入浴を嫌がられる方には、足湯をすすめて、入浴へのきっかけ作りをすることもあ

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームあき

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 白神 敏恵

評価完了日 2009 年 9 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			理念を実践できるように利用者に対してできるだけ要望に答えられるように日々努力している。	
			(外部評価)	
			「どこにも行き場のない方の為に」との思いで、グループホームを立ち上げられ、「高齢者の自立を支えるための豊かな生活環境づくりと地域社会とのネットワークの創造」という理念のもと取り組まれている。理念は、ミーティングや日々の中で管理者が言葉に出して職員に伝えておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			日常的には、交流できていない。 秋祭りなどでは、利用者様から喜んでいただけるように地域との交流を進めている。	
			(外部評価)	
			近所の公園に散歩に行き、地域の方と挨拶を交わすことも多い。今年は地区の敬老会に招待していただき、14名の利用者が参加され、涙を流して喜ばれた。今年の秋祭りには、おみこしを入れられたり、ちょうちん行列にも回ってもらえるようお願いされており、樽酒やお菓子を準備して、利用者、職員でハッピーを着ることを楽しみにされていた。	さらに、地域の運動会等への参加も働きかけておられ、管理者や職員の地域への働きかけの積み重ねで、地域とお付き合いも増えてきている。今後は、事業所側からも認知症や介護技術や知識等、事業所の専門性等も活かして、地域とのさらなる信頼関係作りに取り組んでいかれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			小学生の社会科見学などに協力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議では、事業所の取り組みや利用者の様 子、外部評価の結果を話し合い、そこで出たアイデアな どを日々の取り組みに活かす努力をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議でご家族から「認知症や介護で悩んでいる人が多 いと思うので、ホームのことや介護制度について等、 広報していくための相談会などを開いてはどうか？」 という意見が出されたのをきっかけに、管理者は地域 に向けての広報誌の見本を作り、民生委員に渡され た。</p>	<p>地域の方々にも関心を持っていただけるような会議内 容の工夫等、会議への参加者を増やしていかれてほし い。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>行政説明会や研修会への出席にとどまらず、 担当者と連絡を取り、とてもよく連携できている</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者には、身寄りのない方や生活保護受給者の方が 多く、市の担当者と頻りに連絡を取って、利用者の生 活支援について相談されている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束を行わないケアに職員一丸となって 取り組んでいるが、医師の医療的判断・指示により 結果的に身体拘束となる場合がある。 その場合は、書面にて本人・家族へのリスク説明と同 意を必ず得るようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関・スロープのついた出入口には、日中施錠してい ない。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に定期ミーティングで、議題に上げ啓発に努めている	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議等で話し合い、理解を深めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) できている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族の意見を尊重し、なるべく対応できるように 常々ミーティングで話し合い、解決している。 (外部評価) 往復ハガキを用いて、利用者の近況報告をして、ご意見を書いて返信してもらえるようにされているが、現在、ご意見を出されることは少ないようである。連絡や行事へのお誘いの電話をされる際にも意見を聞いておられる。	「ご家族は遠慮があるのではないか」と管理者は思っておられる。事業所のケアの質を高めていくためにも、利用する側であるご家族が、気軽に意見が出せるような機会や工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティングにて職員から、色々な意見・提案を聞き、皆が納得するように話し合い、利用者や職員双方がより良い方向になるように内容を反映させている。	
			(外部評価)	
			月に2回、職員で意見交換する場を持たれており、職員から入浴時の器具の購入の要望や食器をひっくり返してしまう利用者への対応等、ケアの工夫についても話し合っておられる。管理者は、職員全員とメールでもコミュニケーションに努め、相談やケアの技術、メンタル面等のフォローをされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			休日の指定は平等に聞き入れている。職場環境・待遇の整備はできている。また、職員の自己研鑽の研修なども内容を勘案して法人が費用負担し、働きやすい環境を作っている。	
13		職員を育てる仕組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			職員の内外の研修なども内容を勘案して法人が費用負担し、職員一人一人のスキルアップを応援している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			地域包括支援センター主催の勉強会や、グループホーム連絡協議会の研修に参加し、サービスの質を向上すべく常に情報交換をしている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用開始時の不安を取り除けるように、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	(自己評価)	
			<p>利用開始時の不安を取り除けるように、家族の要望を 実践するための関係づくりに努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	(自己評価)	
			<p>他施設などからの、情報提供書なども参考にして、 色々な支援の可能性を検討している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	(自己評価)	
			<p>不必要な馴れ合いの関係になることなく、それでいて 一つの建物の中で暮らしを共にする温かい関係を築く ようにしている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	(自己評価)	
			<p>築いている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	(自己評価)	
			<p>馴染みの理髪店にお連れしたり、馴染みの人に手紙を 出したりできるように、支援している。</p>	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の性格・生活歴を考慮し、支えられるように支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用(契約)が終了しても、お便りを出したり、ホームにご訪問いただいたりして、良好な関係に努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、家族に聞くなどできるだけ、検討している (外部評価) 利用者個々に職員の担当を決め、利用者個々を把握することに努めておられる。又、管理者は、日々のかかわりの中から情報収集をして、利用者のことをよく知っておられる。	すべての職員で、利用者一人ひとりの実情や、思い・意向を把握できるようなアセスメント表の作成に取り組んでいかれてほしい。職員全員でご本人の全体像を把握して、ケアにつなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 情報提供書などを参考に、把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>3ヶ月ごとのケアプランの見直しを機に、職員からの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>主治医等の意見もいただきながら、介護計画を立てておられる。胃ろうの状態が入居された利用者が食事時に口を動かされることに気付き、主治医に相談して、雑炊を少量食すことを試された。その後、様子を見ながら支援し、現在は、ご飯のみご自分で三食とも食べられるようになっている。それぞれの生活の質を高められるような支援に取り組まれている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の介護サービスの記録を細かくホーム独自のサービス提供票に記録している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域資源との協働はあまりできていない。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)	
			かかりつけ医との24時間オンコール体制を構築して おり、常時、適切な医療を受けられるように支援して いる	
			(外部評価)	
			協力医療機関とは別に、利用者の希望する医師の往診 を受けている利用者が複数おられる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価)	
			支援している	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			入院時も、状態把握や退院後の支援の為に医療機関に 訪問したり、病院関係者と連絡をしたりしている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家 族の希望をふまえ、同意書をもらっている。地域の関 係者とのチームでの支援は取り組めていない。	
			(外部評価)	
			ご家族から「家で看取るように自然な看取りを」とい う希望もあり、今年、利用者2名の看取りを支援され た。身寄りのない方も最期は、職員が手を握って話し かけておられる。管理者は夜間、職員から1時間毎、 メール報告を受けて、対応についてのアドバイスをさ れた。必要な時にはいつでも管理者とケアマネー ジャーが駆けつけるようになっており、かかりつけ医 も24時間体制で協力して下さっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 内部で研修会をすることもあるが、全職員が実践力を身に付けているまでには至っていない。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の地域との協力体制構築には至っていない。	
			(外部評価) 年2回、消防署の協力を得て避難訓練を行っておられる。消防署の指導を受け、布カーテンを防災カーテンに取り換えておられた。布団を使っての避難がむづかしいため、通常の担架と、縁がある担架も準備されている。緊急時には、近隣の病院や裏のおうちの方に協力をお願いされている。	夜間を想定した避難訓練等の取り組みも重ねていかれてほしい。又、多くの近所の方に協力をいただけるような体制作り等、安全と安心に向けて取り組みをすすめていかれてほしい。又、災害があったようなとき、地域のために事業所が協力できるようなことはないか、話し合われてみてはどうだろうか。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしているが、できていない職員には適時指導をしている。	
			(外部評価) 職員は、他の利用者にも気を配り、ご本人の近くに寄って声をかけるようにされている。入浴介助時には、脱衣所のカーテンを引いて、タオルを体にかける等、配慮されている。おむつ等はプラスチックのケース等に収納されていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 受動的にならずに、能動的に行動できるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の個性にあわせた生活リズムを尊重するようにしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) マニキュアを一緒に塗ったり、自分で身だしなみができるように電気シェーバーを買ったりして、支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の介護度の重度化に伴い、利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けをすることは難しくなっている。簡単な食材の準備などは、負担にならない程度に参加してもらっている。	
			(外部評価) 管理者は、利用者の希望を聞き、南予まで旬の食材の買出しに行かれることもあり、手作りの料理やおやつが食卓に並んでいる。魚は、事前に骨を抜いたり、切り身を買うようにされている。まずは、皆と同じ料理をテーブルに並べ、目で見ていただいてから、食べやすく小さくされたり、ミキサー食の方も、1品ずつ別々にミキサーをかけて小皿に盛っておられる。インゲン豆の筋取りや野菜の皮むきをされる利用者もおられるが、年々介護度重度の利用者が増えて、食事の準備や片付けに関わる利用者は減っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分補給量の把握に努め、記録している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) できている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	できるだけ支援している。	
			(外部評価)		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	取り組んでいる。	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	利用者の希望があるときは、できる限り入浴の希望に沿っているが、職員数や勤務体制、事故防止の観点から入浴の曜日は決っている。	
			(外部評価)		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	支援できている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員一人一人がある程度薬の情報を把握するように努めているが、職員全員の理解までは至っていない。その為、事故防止の観点から服薬担当者は特定の職員に決めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 希望のスポーツ新聞を取ったりするなど支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) なるべく外出の希望に沿えるようには努力しているが、すべての希望には対応できていない。遠出の希望には、プロ野球観戦など職員や家族の協力で徐々にできることも増えてきた。	利用者が日常的に外出できるような環境作りや雰囲気作りの工夫にさらに取り込まれたり、希望をお聞きしながら日々、外に出られるような機会を増やしていかれてほしい。
			(外部評価) 日常会話から、坊っちゃんスタジアムに野球観戦に行くことになり、楽しまれた方もある。介護度重度の利用者も庭でおやつを楽しまれたり、外出がお好きな方と管理者手作りのお弁当を持って、市内の公園にお花見に行かれるようなこともある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 散歩の途中で近所のドラッグストアへ寄って、買い物できるようにお金をつかえるように支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>幼兒的にならないように、季節の飾りを配置し、季節感を 感じられるように工夫している。 また、居間の水槽により和む空間作りをしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関周りには、職員と利用者が一緒に植えたお花が咲いていた。食堂にある大きな円柱型の水槽には、小さな魚やエビが泳いでいた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用空間があまり広くないので、今後の検討項目とする。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>使い慣れたタンスなどの家具を持ち込んでもらっている。カーテンについては、消防署の指導で取り替えさせていただいた。</p> <p>(外部評価)</p> <p>各居室の入り口には、職員手作りのフレームで飾られたご本人の写真が掛けられてあった。音楽がお好きな方はポータブルオーディオでお好きな歌を聞かれたり、利用者同士で写っている写真も飾られていた。好きな俳優の写真やチラシを貼っておられる方もあり、笑顔で話して下さった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>洗濯物の取り入れや整理など、必要以上の介助・介護を減らして、持てる力を減少させることなく自立した生活が送れるように工夫している。</p>	